

81 B 31

## 特許公報

特許出願公告  
昭28-167

公告 昭28.1.19 出願 昭25.9.30

特願 昭25-12786

出願人 発明者	横 畠 茂	東京都杉並区西田町1の869
出願人 北 上 重 増	東京都墨田区駒込4の11	
同 小 野 良 昌	東京都杉並区西田町1の854	
代理人 弁理士 小 川 潤 次 駿		

(公6頁)

## 解体折畳み自在なる携帯用自動自転車

## 図面の略解

図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は組立てた場合の左側面図、第2図は両平面図、第3図は両正面図、第4図は折畳むた場合の側面図、第5図は両平面図、第6図A、B、Cはフレームの把手装置及び連結装置でAはその平面図、Bはその側面図、Cは両端断側面図、第7図A、B、C D、E、Fは左右握手とハンドルポストの接着部でAは組立てた時の斜視図、Bは折畳むた時の斜視図、Cはハンドルポストの上部にある左右握手の契合部の平面図、Dは両正面図、Eはその一部平面図、Fは一部端断側面図である。

## 発明の詳細なる説明

本発明は長さを調節することの出来る左右2本の握手を夫々の根部に於て前フォークステムの上端に設けたハンドルポストに対称的に接着したハンドル部と、前車体と、後車体の前下端附近に於て一方の車体の折畳部の上方に向つて一つの凹陷部を形成し、之を他方の車体に設けた突起部に接着するようにした把手装置と、この結合部に於て両者を連結する連結装置によつて完全に一體となるようなフレームを備へる解体折畳み自在なる携帯用自動自転車に係るものである。

本発明の実施例を図面に示すものに付説明する  
1 ハンドル部分

ハンドルは握手1を備へた曲杆2の下部を外筒3内に摺動自在に嵌挿し、聚定具を以て、其の全長を適当な長さに固定せしめ得るようにした左右2本の握手を夫々の根部3'、3'に於て前フォークステム4の上端に設けたハンドルポスト5に接着したものである。而してハンドルポストはその上部にハンドルの左右の握手の下端に夫々接着した内側に縫のある履毛6'を接着し、此の縫を合致して之に押縫7,7'を備へた各握手の回転軸を成すボル

ト8,9及び蝶板子軸9を契合せしめるもので蝶板子を緩めると握手はそのまゝ左右に約180度回転して折畳むことができる。又た握手を備へた曲杆2は左右握手の中心垂直線に対する角度を変へることなく上下に移動し得る為め下方に移した時は同時に両握手1,1間の距離を縮めることができる。

## 2 フレーム

フレームは、組立てた場合1本の堅固な梁を構成するよう後車体フレームの前下端に設けた上向きの凹陷部10と、前車体フレームの末端に設けた突起部11とを備へ、且つ後車体の把手部片の側方に備てたボルト12ナット等のねじを以て両把手部片を連結し、而してこの結合部に於て、後車体に接着した爪片13と、前車体に接着された固定用横杆14の両支柱15の脚16を以て、結合部を上方より押圧して堅く支持する連結装置を持つてゐる。即ちこの把手装置は車体の上方より掛る圧接力を相互の接触面に作用せしめ上部より荷重がかかる衝撃を強固に支持する。

又この把手部の下方より押上げる力が働く時は連結装置が上方より防禦することが出来る。(把手部の下方斜めに掛る圧力即ち前後車輪より来る圧力は相互の接触面で支持することが出来るので通常に押上げる力は輕いものである)

尚ほボルト接続部はボルトと鉗型片との契合装置其他適當な接締を用ふることが出来る。

更に此の図面に示す所謂スターターの構造に付を附記すると、前車輪に車軸17を支へる腕と、前フォーク4の先端を結ぶねじ軸があり、又た車軸17と、泥除18の後部をつなぐ軸19と、前フォークとを接合ペネ20を以て連結する前輪接合機構を備へてゐる。而して後車体には発動機21及び其の附属具なる調節22、調節23、燃料タンク24、排氣消音

器25等を収納する框26の前方斜面に外筒27を取着け、之にサドルを搭載したサドル支持杆28を嵌挿し、锁定具を以て適当な位置に支持するように構成してゐる。

故に普通のスクーターと異りハンドル及サドルの高さを各自の希望に従ひ適正に調整され且つ斜めに支へたサドルの為め定行車の車輪に絶へず与へる衝撃を大に緩和することができる所以一燈スクーターの持つ欠陥を補ふことが出来る。

尚ほ前車体フレームの中央よりやい前方に足掛杆29を搭載し折畳む場合は該杆を後方に90度回転してフレームと一致せしめるように構成してゐる。

次に本発明の自動自転車を折畳むで携帶又は搭載する場合には先づハンドルの蝶蝶子を組め握杆はそのまゝ左右に約180度回転して倒す。次に把手部に於て固定用横杆を持上げて爪片と、弾条杆の頭との契合を解き、更に前車体フレームの把手部を後車体の凹陥部より脱し、ボルトを組軸として前車体を後車体の側方へ来るまで略ば180度水平に回転し、锁定具を以て両者を固定する。

また此のスクーターを解体する場合は先づボルト組軸のナットをはずしてボルトを抜き、次に連結装置の爪片と、弾条杆の頭との契合を解いて、前車体フレームの把手部を後車体フレームの対応部よりはずすと両車体は簡単に分離することが出来る。

尚フロントカーを後車体に取着ける場合はフロントカーに設けた連結杆に後車体フレームに備へた把手部片及び連結部片の前記対応部片を取着け之等を接着し簡単に行ふことが出来る。

以上説明する如く本発明はハンドルを所要の位置に保持し、組立てを極めて堅牢ならしめ且つ解体折畳みを容易迅速に行はしめ、又た折畳む場合はその容積を縮小限り縮少せしめて携帯格納に便ならしめ又た必要に応じ後車体と、運搬車とを該把手装置及び連結装置に依り連結せしめることが出来るものである。

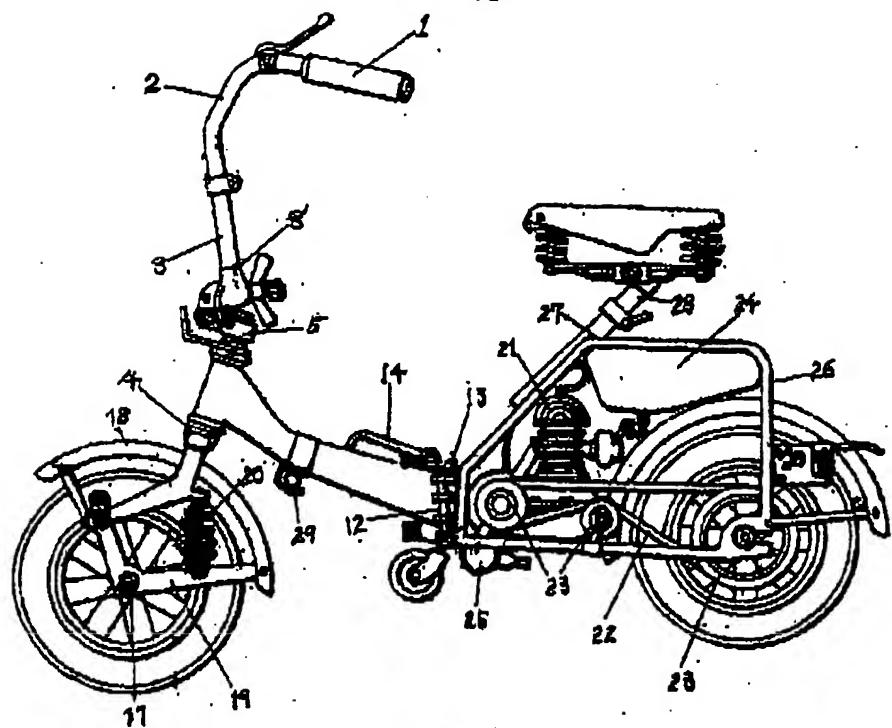
#### 特許請求の範囲

本文に詳記し図面に掲示する如く小車輪にて、小型小馬力のエンジンを座席の下部に納め座席とハンドルとの間の空間を大にし且つ足踏駆動装置を有せざる種類の自動自転車に於て、前フロントステムの上端に設けたハンドルボアストに対称的に組合したハンドル部を備へた前車体と、サドル部の下方に設けた框内に把手を装備した後車体とを後車体の前下端附近に於て一方の車体の折畳部に上方に向つて一つの凹陥部を形成し、之を他方の車体に設けた突起部に接着するようにした嵌合装置と該嵌合部を密着せしめる爲めの結合装置等を以て完全に一体となるように構成したことを特徴とする解体折畳み自在なる携帯用自動自転車。

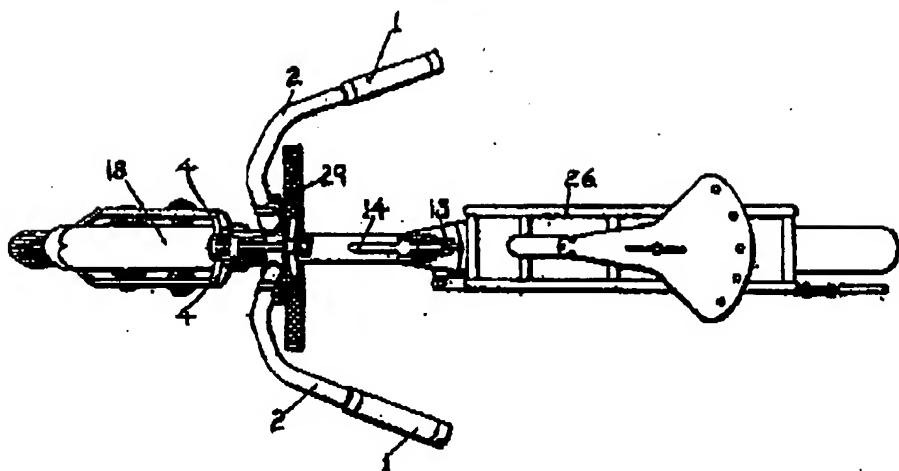
(3)

特許出願公報  
昭28-167

第1図



第2図

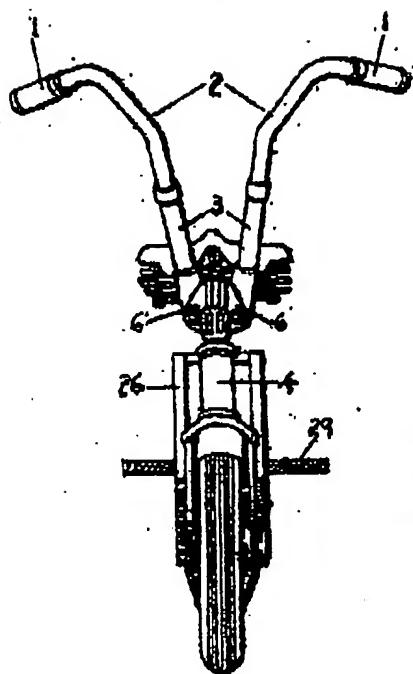


BEST AVAILABLE COPY

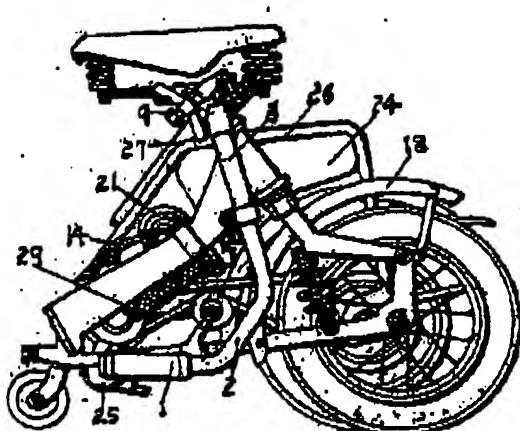
(4)

特許出願公報  
昭23-167

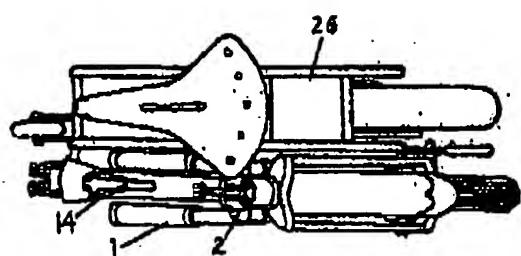
第3図



第4図



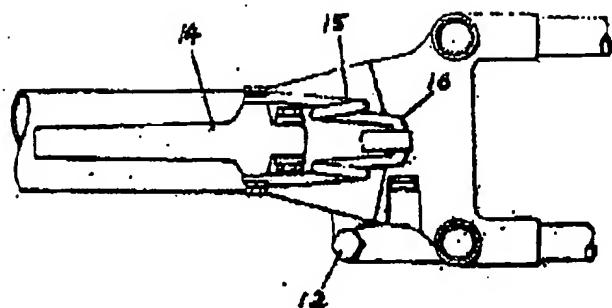
第5図



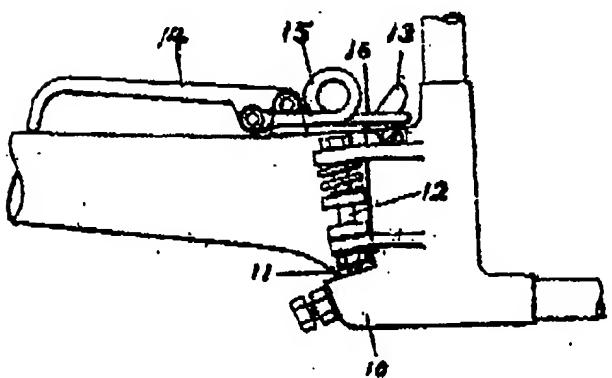
BEST AVAILABLE COPY

第8図

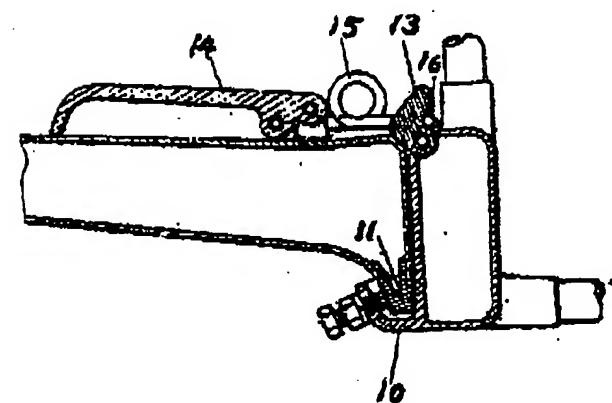
A



B

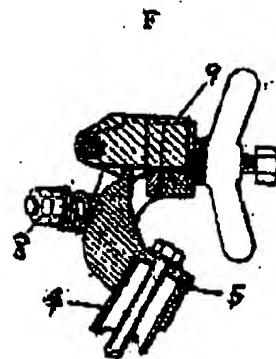
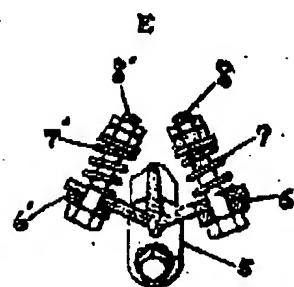
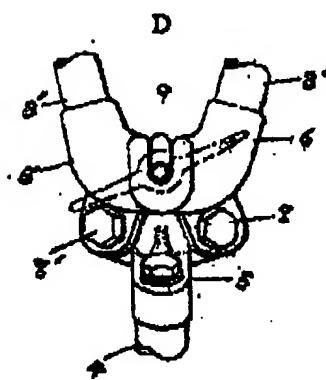
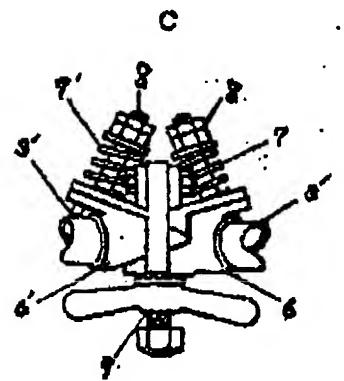
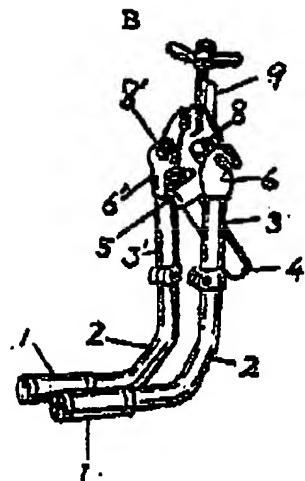
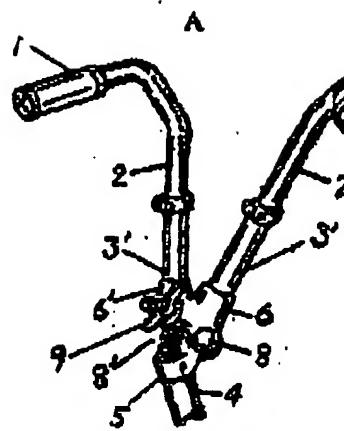


C



(6)

第7圖



BEST AVAILABLE COPY